町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.29 ～

「ケーイング株式会社 秩父工場」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を掲載します。

町長の見て・聞いて・話して

第29回の事業所訪問は、10月20日に小鹿野町飯田にある「ケーイング株式会社秩父工場」を訪問し、高野豊工場長にお話しを伺いました。

創業者である先代の近藤九五社長は、三田川の栗尾出身で、1949年(昭和24年)に東京で青果業を営む「秩父屋」を設立しました。戦前、技術者として自動車部品製作に携わるなど機械にも強かったため、ドイツ製のミシンを手に入れ、1963年(昭和38年)に刺繍部を開設したそうです。その後、「秩父産業株式会社」に社名変更し、1973年(昭和48年)には、不動産部を開設するなど事業を拡大していきました。そうした中で、1977年(昭和52年)には、近藤社長が長年の夢であった生まれ故郷の小鹿野町に少しでも女性の働ける場所を作りたいという思いから、兄の所有していた土地に、秩父産業㈱の刺繍部秩父工場を設立しました。工場長には、親族であった高野工場長が就任し、工場の近所の女性たちが働き始めたそうです。現在でも働いている人たちは、皆さん小鹿野町内を中心にお昼は自宅に帰れるほど近い人ばかりとのことです。

刺繍をしているところを見せてもらう森町長

秩父工場が設立された当時は、工場長も初めての刺繍という事で、東京や鎌倉で研修を受け、一から刺繍のやり方を勉強し、とても苦労したそうです。仕事は、タオル関係をはじめ、ミラショーンのリビング製品、チャイルド社製子供服などブランド品への刺繍や縫製も増え、1979年(昭和54年)、1985年(昭和60年)と工場の増設を行い、縫製部も設立されました。その後、1995年(平成7年)に「有限会社ケーイングちちぶ」として秩父産業㈱から独立し、先代社長の息子さんが2代目社長として就任され、2010年(平成22年)に現在の「ケーイング株式会社」に社名を変更したそうです。

完成品の説明を受ける森町長

▶工場内の様子

現在では、アパレル関係の仕事が多く、特にユニクロからの仕事が主になっているそうです。また、会社や個人からの記念品など一品物の依頼も受けており、珍しいものだと、子どもがクレヨンで描いた絵を型に起し、クッションに刺繍したこともあったそうです。地元では、お祭りの衣装や、柔道着や帯への刺繍、中学のジャージへのネーム刺繍などを手掛けているそうです。

完成品の説明を受ける森町長

わが社の主力製品

「刺繍」、発注者からの要望どおりの刺繍製品をお届けできるよう心掛けています。

ここに自信あり

ユニクロも認めた技術力と生産力、1品ものから企業からの発注による大量生産まで、発注者の要望に沿った刺繍製品をお届けします。

森町長と高野工場長

会社概要

設　　備	多頭機ミシン4台・半頭機ミシン2台・縫製ミシン4台
代 表 者	代表取締役社長　近藤 功 工場長　高野 豊
従業員数	社員9人
創　　業	1977年
所 在 地	小鹿野町飯田752番地1
電　　話	0494-75-0915